

令和5年度中国四国産科婦人科学会評議員会議事録

評議員会： 2023年9月18日（月） 8:10-8:50

於：松江テルサ 1階 テルサホール

出席者： 会長 京 哲（島根）

理事 金西 賢治（香川） 工藤 美樹（広島） 下屋浩一郎（岡山）

杉野 法広（山口） 杉山 隆（愛媛） 谷口 文紀（鳥取）

増山 寿（岡山）

監事 金崎 春彦（島根）

幹事 折出 亜希（島根） 鎌田 泰彦（岡山）

評議員 伊藤 隆志（鳥取） 古宇 家正（広島） 佐藤 慎也（鳥取）

伊達健二郎（広島） 田中 宏和（香川） 田村 博史（山口）

中塚 幹也（岡山） 花岡有為子（香川） 三好 博史（広島）

オブザーバ 谷口 佳代（高知） 渡邊 理史（高知）

（欠席者：岩佐 武、前田 長正、江尻 孝平

泉谷 知明、岩部 富夫、河原 義文、近藤 裕司、

坂本 康紀、土谷 治子、中西 慶喜、中村圭一郎、

中山健太郎、沼 文隆、林 和俊、春名 充、

藤田 卓男、藤野 俊夫、本田 徹郎、前川 正彦、

村上 朋弘、安井 敏之、矢野 浩史、山本 暖、

横山 幹文)

会長挨拶：

京会長より、評議員会開催の挨拶があった。

報告事項：

- 1) 京会長より指名を受け、鎌田幹事より令和4年度会員数および会費納入状況、令和5年度会費納入状況、会誌発行状況について報告があった。

質問等、特になし。

- 2) 京会長より、本年度の学会賞（八木賞）への応募はなかったことが報告された。
- 3) 京会長より、令和5年度臨床公募研究に、香川大学の鶴田智彦先生から「がんゲノムパネル

検査を施行した婦人科悪性腫瘍症例における検査前・後治療経過ならびに転帰に関する調査研究」に関する応募があったことが報告された。

内容的には後ろ向き研究で、中四国の施設でがん遺伝子パネル検査を施行した症例で、パネル検査施行前の治療経過と施行後の治療経過、転帰、予後を調査するというものであります。

ご存じのようにパネル検査は、皆が皆治療まで行き着くものではございませんが、行き着いた人が一体どうなっているのかは知りたいところでございます。ただですね、日本婦人科腫瘍学会とかJGOGでひょっとしたら同じような研究が走っている可能性がございます。そのあたりを調査した上で、それでも中四国で敢えて行う意義があるかどうかを最終的に理事のメンバーで確認するという条件付きで採択させていただきたいと考えております。といたしますのは都市部と地方とで比較して、地方では治療に行き着かなかったり、臨床試験に参加できなかったりする人がいるかもしれない、治療成績に差があるのかどうかをみるのも意義があるのではないかという意見も学術委員会でありました。以上より、理事のメール審議で最終的に採用を確定させていただきたいという条件付きでの採択というのが学術委員会での審議内容でございました。

質問等、特になし。

協議事項：

1) 令和4年度決算書

京会長より指名を受け、鎌田幹事より令和4年度会計の報告があった。

収入の部は、過年度会費も含めて、1,282名の会員より計6,410,000円の会費納入があった。機関誌収入の掲載料が1,719,410円であるが、令和5年6月末時点での未納金は796,818円であった。これに関しては、投稿を常に受け付けているためにこのようになっているものと思われる。刊行協力費（広告費）は330,000円と例年よりも多く集まった。学術基金から学術支援費として、学術講演会・総会の開催費支援の増額分である50万円、公募臨床研究支援費の増額分である70万円、『現代産婦人科』のオンラインシステムの年間使用料（投稿数60編）である35万円の計155万円を支援費として拠出した。小計が10,055,925円で前年度繰越金と合わせて、19,543,722円が収入合計となる。

支出の部は、総会費として200万円を高知大学に供出した。機関誌刊行費は印刷費に4,526,720円、発送費に298,025円を要した。『現代産婦人科』のオンライン投稿・査読システムの年間利用料およびサポート料は投稿数60編で401,391円（税込）であったが、投稿数が不採録や審査中のものも含めると計70編あり、超過料金57,651円が発生している。

学会賞は受賞者なし。名誉会員は該当者なし。学会ホームページは、スマホ対応版のホームページ制作費として1,174,360円を支出した。公募研究助成金は100万円を岡山大学(松岡 敬典先生)に供出した。Plus One産婦人科セミナーは第74回中国四国産科婦人科学会学術講演会(高知大学)中に催行され、開催経費として998,915円を供出した。収支の詳細については、事務局より後に報告する。以上より小計が12,857,833円で、繰越金が6,685,889円であると説明がなされた。

金崎 春彦監事より監査報告があった。江尻 孝平先生と厳正に監査し、すべて適正に処理されていた旨につき報告された。

そして令和4年度決算書は、全会一致で承認された。

2) 令和5年度予算案

鎌田幹事より報告があった。すでに各財務委員からの承認を頂いている旨が伝えられた。

収入の部については、今年度の会費納入の義務のある会員数は1,283名で、会費納入率は例年99%以上であること、また若干名の過年度会費納入と併せて考え1,283人分で計算した。機関誌収入について、刊行協力費は例年厳しく過去3年間の実績より25万円を、掲載料は過去3年間の投稿件数および1編あたりの掲載料より250万円を計上した。文献許諾使用料は、昨年度を参考に4万円とした。学術基金からの学術支援費は、学術講演会・総会の開催費支援の増額分である50万円、公募臨床研究支援費の増額分である70万円、『現代産婦人科』のオンラインシステムの年間使用料およびサポート料である40万円の計160万円を計上した。利息は昨年同様に1万円を策定した。小計が10,815,000円で、前年度繰越金と合わせて17,500,889円が収入合計である。

支出の部については、総会費は200万円とした。機関誌刊行費は過去3年間の投稿論文数を参考に印刷費を500万円、発送費は昨年同様に35万円とした。英文抄録の英文校正代は昨年度同様に10万円とした。オンラインシステムの年間使用料およびサポート料は投稿数60編として40万円を計上した。編集協力費として昨年同様に100万円を計上している。委員会費は10万円とした。学会賞費は例年通り3万円とした。名誉会員表彰費は3名分計上した。管理費は例年通りとした。ホームページはサーバーレンタル料、メンテナンス料として10万円を計上した。公募研究助成金は100万円とした。Plus One産婦人科セミナーは100万円を上限に予算を計上した。小計が12,370,000円で、5,130,889円が繰越金となると説明がなされた。

そして予算案は、全会一致で承認された。

3) 次期および次々期総会開催の件

京会長より、来年の第76回は徳島大学が、第77回は山口大学が主催されます。以降は第78回が愛媛大学、第79回に川崎医科大学、そして第80回広島大学、第81回香川大学、第82回鳥取大学、第83回岡山大学の順番に決定した旨の報告があった。

開催順について全会一致で承認された。

4) 役員交代について

京会長より次期会長は岩佐理事に交代し、各役員の交代についても別紙の如くとなる旨が報告された。

役員交代につき全会一致で承認された。

5) 名誉会員推戴について

京会長から、鳥取産科婦人科学会より原田 省先生、岡山産科婦人科学会より塩田 充先生、徳島産科婦人科学会より春名 充先生、古本 博孝先生の計4名の推薦があったことが報告された。

協議の結果、4名の先生の名誉会員への推戴が承認された。

6) プロジェクト Plus One 産婦人科セミナー収支報告について

前田理事が欠席のため、鎌田幹事より、昨年の本会で高知大学が Plus One セミナーを開催した旨が報告された。

高知大学医学部災害・救急医療学講座教授 西山謹吾先生を迎え、災害医療のトリアージシミュレーションが実施されたこと。計33名の学生、初期研修医が参加し、998,915円の経費に対して、学会から満額を供与したとの説明がなされた。

7) 「現代産婦人科」投稿規程について

京会長より、査読者より指摘のあった点につき説明があった。

「現代産婦人科」投稿規程中の■文献記載について 2. の「引用部位の右肩に文献番号を付ける。」のあとにある「なお著者名を記載する場合…」の記載が一部の投稿者の誤解を生じている可能性がある。実際に、文献番号の後に、引用文献の著者名と出版年を併記している投稿者がいました。文中に引用文献の著者全員の名前を記載しないのは当たり前のことですが、投稿規程にこのように書いていますと2つの記載様式を書いてしまうことになりかねない。そこで後半部分を削って、文献番号だけにするように変えたいと思います。

全会一致で、「なお著者名を記載する場合…」の記載は削除するというように決定した。

8) 「現代産婦人科」ペーパーレス化について

京 会長より、昨日の理事会で学会機関誌のペーパーレス化についての議論があったことが報告された。指名を受け、鎌田幹事より報告があった。

「現代産婦人科」のペーパーレス化に関してですが、近年の資材価格の高騰化もあって印刷費が年 500 万円発生しており、送料と合わせると年 500 数十万円かかっていますので、これがかかり学会の財政をひっ迫しているというのが問題となりました。

実際にペーパーレスになると支出がどれくらいになるのかを印刷を担当いただいている友野印刷株式会社に確認しましたところ、校正、レイアウトおよび PDF 形式にするのに年 100 万円くらいとの回答を得ました。さらにそれを e-book 的に見開きで WEB 閲覧できるようにするのは追加で年間 20-40 万円かかります。実際にはもう少しお金が動くかもしれませんが、ペーパーレス化で年間 300-400 万円くらい浮くのではないかという試算が出ておりまして、それを踏まえて昨日の理事会で審議された次第です。

京 会長：数年前からいづれペーパーレス化という話はありませんでしたが、いよいよそれを現実的なものにしたとの提案がございました。ペーパーレス化で年間 300-400 万円くらい浮くのは財源的にもかなりメリットでして、それではデメリットがあるかといいますと特にないのではと考えております。長年続いた立派な紙質の雑誌はちょっと名残惜しい気もいたしますが、日産婦や他の学会もほとんどそんな方向に舵を切っておりますので、本学会もそのようにしたいのが理事会の意見でございます。屈託のないご意見をいただきたいのですが、いかがでしょうか。

田中評議員：方向性としては色々な学会がそのようになってきているのでいいと思いますが、それに際し確認していただきたいのが広告収入なんですよね。企業さんによっては雑誌の広告は OK だけど、バナー広告は認めてもらえないというケースが学会抄録集を作成するときとかにありまして、そこを確保できるかどうかの確認が必要かと思っております。

京 会長：ありがとうございます。現時点でペーパーレス化を検討しているのは抄録集（サプリメント）ではなくて、年 2 回の機関誌に関してです。ここに広告料はどれくらい入っていますか。

鎌田幹事：広告は例年 25 万円くらいで、この 2 年間は 33 万円入っています。しかし年間 300-400 万円に比較すると少額ですので、極端な話、広告料はなくてもいけるのではとも思っております。広告を入れたい企業があるかもしれませんので何らかの方法を検討してまいります。

京 会長：広告を入れたい企業があるかもしれませんね。その場合はバナー広告とか。

鎌田幹事：抄録集（サプリメント）については、当面は開催する学会長の裁量で印刷するかどうかということに昨日の理事会で決定しました。その際は広告が入りますので、これまで

通りに各企業に広告をお願いすることになるかと思えます。

京 会長：抄録集をペーパーレスにするとしたら、アプリを導入せざるを得ないという流れになるのでしょうか。この規模の学会だと必要ないですかね。

鎌田幹事：来年の徳島は現状のままです、実質上は山口での開催の時にどうするかということになるかと思えます。サプリメントは制作に100万円くらいかかりますが、学会からはそれに対する援助はこれまでもしていません。学会援助金の200万円にさらに上乗せするかどうかについては今後諮ってまいります。

京 会長：学会長の裁量ということになりますかね。時期ですが、来年の春までの機関誌の発刊はこれまで通りの紙媒体で、来年の秋以降からペーパーレスという段取りとなっております。

全会一致で、来年度からの学会誌のペーパーレス化を進めるということに決定した。

鎌田幹事：お認めいただきましたので、来年の本会までに学会会則の内規第1条についての改定案を準備いたします。

京 会長：内規の第1条に「機関誌の発行」についての記載がありますが、ペーパーレス化すると6つの条項が当てはまらなくなってしまうんですね。これを大幅に修正するという事です。大急ぎでというわけでもないの、十分に審議を尽くした上で変えたいと思えます。これは案を作成いただいた後に、メール理事会で揉んだうえで、どこで承認ということになりますか。

鎌田幹事：内規ですので理事会承認後に、評議員会で最終決定ということになります。事前のメール審議をしていただくことになるかもしれません。会員には本日の総会や「現代産婦人科」の紙面等でアナウンスしていく必要があるかと思えます。

9) 「現代産婦人科」投稿規程のAI（人工知能）に関する記載について

鎌田幹事：査読システムのScholar Oneを運営している杏林舎から、投稿規程中のAIに関する記載につきどうするか、問い合わせがありました。それに関して、周産期新生児学会誌や女性医学学会学会誌などの和文誌の動向を待ってから、投稿規程を変更しようとして昨日の理事会で決定いたしました。

京会長より閉会の辞あり、閉会。

以上